

ほぼ横ばい、方向性を欠いている消費者心理

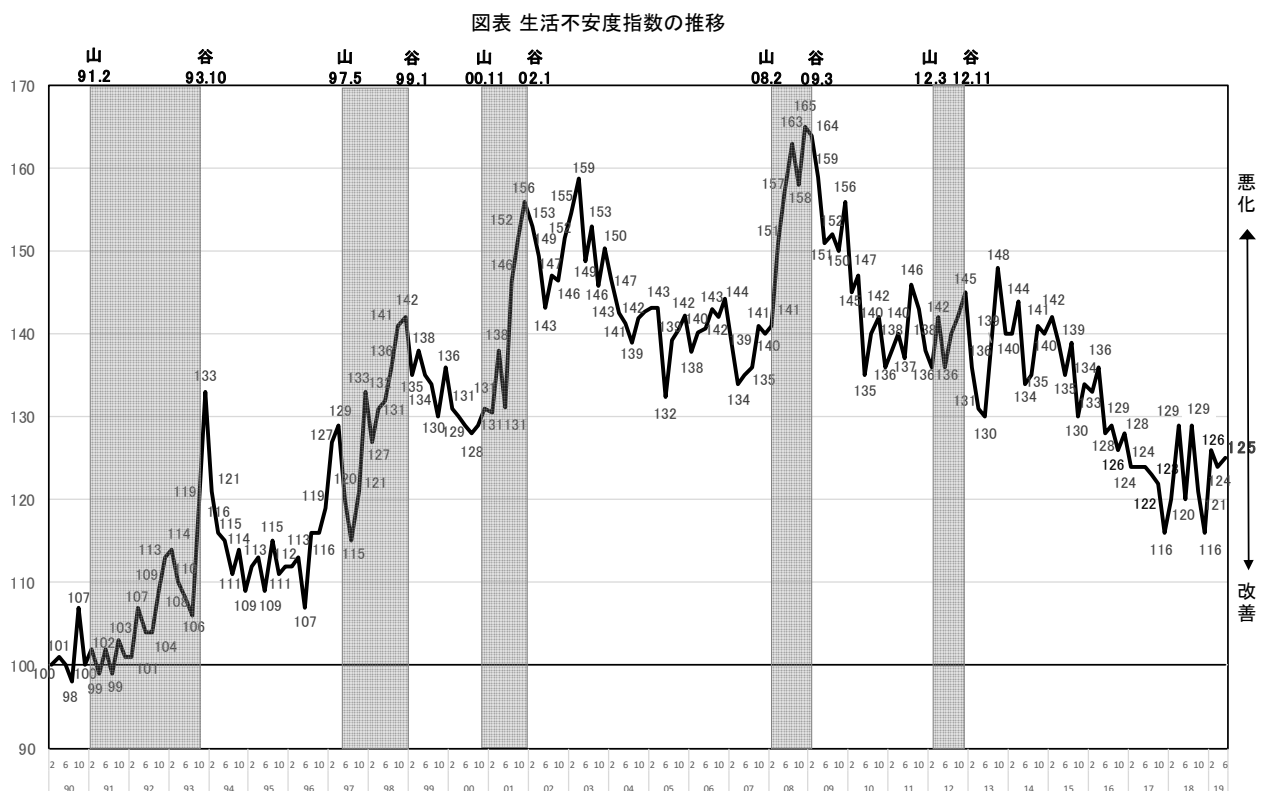
— 2人に1人が先行き景況感の悪化を見通す —

消費者による今後1年間の見通し判断を調査したCSI（6月調査）によれば、

先行き悪化見通しが過半数となるなど景況感は後退色を強め、景気見通し指数も前回4月から大幅に低下、物価[上昇]見通しはほぼ横ばいも、上昇圧力は依然高水準にある。他方、失業[不安]見通しは2調査連続で微減、小幅な改善が示され、緩やかな回復基調を取り戻している。また、収入の先行きは[増加][減少]とも微増、回復と後退の両側で綱引き状態にある。消費者心理は、6月もほぼ横ばい状態にあり、依然、先行き方向性を欠いた状況が続いている。

《概況》

消費者の景気、雇用、収入、物価等に対する見通しの変化を反映した消費者心理の指標である生活不安度指数は、6月は125となり、前回4月(124)から1ポイント上昇、ほぼ横ばいである。この1年は8月の129から12月にかけて116まで低下、持ち直し方向も、2月は126へとかなり上昇、後退する不安定さを残し、前回4月はほぼ横ばい僅かな改善であった。



- **生活不安度指数**のもととなる**今後 1 年間の暮らし向きの見通し**は、**[良くなる]9.2%、[変わらない]55.4%、[悪くなる]25.9%**であった。前回 4 月調査と比べると、[良くなる]はほぼ横ばい、12 月に 1 割を上回ったものの、以降の 3 調査は僅かに下回る水準が続く。他方、[悪くなる]もほぼ横ばい、およそ 4 人に 1 人を占める状態が 3 調査続いている。消費者の暮らし向きの見通しは、両側でほぼ横ばい、様子見状態となっている。
- **先行きの景況感**は、**[良くなる]9.2%、[変わらない]26.6%、[悪くなる]50.3%**となった。4 月と比べて、[良くなる]はやや減少、3 年ぶりで 1 割を下回る水準となった。他方で、[悪くなる]は増加、ほぼ 2 人に 1 人を占めて、6 年 8 ヶ月ぶりで 5 割を上回っている。消費者の景況感だが、6 月は大きく後退、先行き悪化の見通しが強まっている。この回答割合を指数化した **6 月の国内景気見通し指数は 37**で、4 月の 56 から大幅低下、12 年 12 月 (36) 以来 6 年半ぶりに 40 を下回っている。また対前年比は 18 年 8 月以降 6 調査マイナスの状態が続いており、後退基調が認められる。

雇用(失業不安)の先行き見通しでは、**[不安]と答えた人は 54.2%、[不安なし]と答えた人は 41.9%**であった。4 月調査と比べると、[不安]は僅かに減少、2 調査連続のマイナスとなっている。他方で、反対側の[不安なし]はほぼ横ばいも僅かにプラスで、2 調査連続の増加、4 割を上回る水準を維持している。前回 4 月と同様に、小幅ながら[不安]減少、[不安なし]増加となっており、両方向で改善が認められる。

収入の先行き見通しをみると、**[増える]人は 14.7%、[変わらない]人は 47.1%、[減る]人は 29.1. %**であった。4 月と比べると、[増える]は僅かに拡大、3 調査ぶりにプラスとなった。これに対して、反対の[減る]は僅かに拡大、3 調査連続で前回比プラスである。また、[変わらない]は低下して、7 調査ぶりに 5 割を下回った。収入見通しは、2 月以降は足踏み、持ち直しと後退の綱引き状態にある。

物価の先行き見通しでは、**[上昇]は 77.9%、[変わらない]は 10.8%、[下落]は 1.5%**であった。4 月と比べて、[上昇]はほぼ横ばい、2 調査連続で 8 割に迫っている。一方、[下落]は横ばい、17 年 4 月以降 2 %を下回る状況が続く。また、[変わらない]は僅かに減少、3 調査連続のマイナスである。消費者の物価見通しは、4 月に続き、上昇圧力の高い状態を持続している。
- 今後 1 年間で商品等を購入するのに『良い時』か『悪い時』かについて尋ねた **6 月の購買態度指数**は、4 月と比べて、「**不動産**」(85→82)と「**自動車**」(90→87)は 2 調査連続の低下、後退が続く。3 調査連続で低下していた「**耐久財**」(100→100)は横ばい、『良い時』と『悪い時』のバランスする状態を維持。

【有効回収数等】

	有効回収票	調査期間
2019 年 6 月調査 (18 歳～79 歳)	1, 156	5 月 3 1 日～6 月 1 2 日